

農薬豆知識【病気のお話】

《たまねぎ小菌核病について》

たまねぎ畑の攻防

【キャスト】

小菌(ショウキン):シボリニア アリー(小菌核病菌)

ボト:ボトリチス達(白斑葉枯病菌)

ボト:そーいやあ明日から札幌まつりじゃない?

小菌:おお、そうだな6月も半ば。今年も心地よい季節を迎えたな。

ボト:平均気温14~15℃か。

小菌:そうそう。あとは畑が湿りさえすれば…。

ボト:得意のトランスフォームだな。

小菌:ああ、子のう菌だからな。お互い様でしょ。

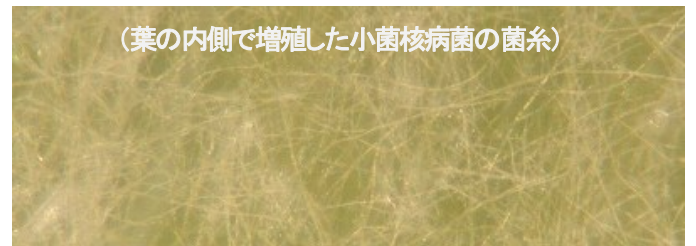
ボト:気付かれぬようキノコはひっそりと。

小菌:「夏至過ぎて 畑湿らす恵み雨 トランスフォームで 孢子飛ばせや」

ボト:1~2週間潜伏して病斑作るのは7月上旬か。



(小菌核病のキノコ)



(葉の内側で増殖した小菌核病菌の菌糸)

されたようなもの。

ボト:小菌の菌核って、葉を抱き込んで、ほとんど一体化しててるよね。ポロっと落ちる小豆なんかの菌核病の菌核とは、ひと味違う。

小菌:良く見てますな。



(外周が明瞭で急速に拡大する小菌核病の病斑)

小菌:急に葉を枯らしちゃうと人間に気付かれるから、潜伏期間をとって侵入をカモフラージュしつつ、こっそりと葉の中に忍び込むのだよ。

ボト:その後はハンパなく枯らすよね、小菌って。我らは地味に病斑数を増やしてジワジワ喰らうが、先に小菌に枯らされちゃうんだよね。

小菌:どうせなら火の如く。それにしても感染前の薬剤散布はやめてもらいたい!

ボト:薬剤散布されても1週間待てば、うぶな葉が1枚伸びるよ。

小菌:2週間あればその隙に新葉に感染できるさ。だけど、10日おきに効く薬剤まかれたらまずいかも。

「白く葉枯れたたまねぎと、畑の土にだ〜まって、夏至のくるまでかくれてる、つよい菌核 めにみえぬ。見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。」

小菌核病で葉を枯らさないためには、感染前の防除が必須です。夏至前後の降雨で感染準備が整います。6月下旬~7月上旬の防除を、約10日間隔で行うことが合理的と考え、今年も実証試験を行います。

効果的な防除体系の構築にご期待ください。

<参考文献>

病害虫発生予察情報 第16号 特殊報第2号
北海道病害虫防除所 平成8年

(2014年5月)



(小菌核病)

(おかちゃん)